

情報交換をとおして、よりよい連携の在り方を探る

I 主題設定の理由

大和中学区の児童生徒の健全育成のためには、小中学校の教職員が、本学区の教育課題を共有し、ともに解決の方途を探ることが必要である。そのためには情報交換を密に行い、互いに授業参観をして児童生徒の実態を把握することによって系統的な指導やよりよい連携の在り方を探っていくことが重要だと考え本主題を設定した。

II 研究の具体的内容

1 第1回ブロック交流研究会

- (1) 月日 平成21年8月7日(金)
- (2) 場所 大和ふるさと会館
- (3) 内容 情報交換会
 - ア 今年度の研究テーマと活動計画について
 - イ 中学1年生の学習状況について
 - ウ 中学1年生の生活や行動についての情報交換

2 第2回ブロック交流研究会

- (1) 月日 平成21年11月4日(水)
- (2) 場所 大和小学校
- (3) 内容 小学校の授業参観と情報交換
 - ア 中学校の職員から参観の感想発表
 - イ 小学校の職員から工夫している点や課題等を発表
 - ウ 意見情報交換

3 第3回ブロック交流

- (1) 日時 平成22年1月13日(水)
- (2) 場所 大和中学校
- (3) 内容 中学校の授業参観と情報交換
 - ア 小学校の職員から参観の感想発表
 - イ 中学校の職員から工夫している点や課題等を発表
 - ウ 意見情報交換
 - エ 今年度研究のまとめと来年度の方向についての話し合い

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 授業参観をしたり情報交換を行うことで、児童生徒の実態を知ることができ、学習指導や生活指導に役立てることができた。
- (2) 授業参観を特定の時間に制限せず、終日参観可能という設定にしたので、ありのままの児童生徒たちの姿を見ることができた。そのため、それぞれの学校が抱える教育課題についてオープンな話し合いができ共通理解が深まった。
- (3) 小学校・中学校というくくりではなく、義務教育9年間の見通しの中で児童生徒の学習活動や心身の成長を考えたり、見付けたりするきっかけとなった。
- (4) 小学校から中学校への学習や生活についての段差、いわゆる「中1ギャップ」を児童たちが乗り越えるためにどのように支援していったらよいか、小中学校の立場で話し合うことができた。

2 課題

- (1) 実態が分からなければ対処の方法が明確になってこない。アンケート等で意識調査・実態調査を実施し、実態把握と現状分析をしていく必要があるのではないか。その中から大和地区の子どもの実態把握と現状分析をする中で、小中が連携した指導の在り方を探っていくことが重要であると考えられる。
- (2) 児童生徒理解に資するため、より深く大和地域を知る機会を設けていくことも必要ではないか。例えばフィールドワークを行ったり、地域の人材活用という面においても有識者の話を聞く会を開くなどの方法も考えられる。
- (3) 家庭学習の習慣化や主体的な学習態度の育成のために小中が連携して指導する具体的方法について考える必要がある。

(ブロック長 澤登正仁)